

正の定曲率曲面上の凸閉曲線の Minimal circular ring について

岡 田 一 男

On the minimal circular Ring of the convex closed Curve
on the Surface of positive-constant Curvature.

Kazuo OKADA*

(Received October 15, 1965)

The surface of positive-constant curvature is a sphere, so we may assume that the sphere is the unit sphere. We consider a convex closed curve K on the unit sphere. Here we define that the convex closed curve K on the unit sphere is a closed curve which has following properties:

- (1) K is a closed curve on the unit sphere.
- (2) If we make the tangential great circle t at each point of K , K is completely contained on the surface of the hemisphere encircled by t .

Let G be the spherical closed domain enclosed by K . The domain G is interpreted in two ways, but we consider the domain on the hemisphere which contains K .

Let P is a point of G and Q is a variable point of K . Then we consider the function $R(P) = \max_Q \widehat{PQ}$.

Here we shall use the notation that \widehat{PQ} denotes the great circle through the points P and Q , or the length of the minor arc of the great circle. $R(P)$ has the minimum value R_u at a certain point P on G . R_u is the radius of the circumscribed circle of K .

Similarly, the function $r(P) = \min_Q \widehat{PQ}$

has the maximum value r_i . r_i is the radius of the inscribed circle of K .

We call the function $O(P) = R(P) - r(P)$ "the oscillation of the convex closed curve K about the point P ". When $O(P)$ is the minimum at P , we consider two concentric circles with the center P whose radii are respectively $R(P)$ and $r(P)$. The figure of this concentric circles is called "the minimal circular ring of the convex closed curve K ".

In the present paper we assume that the diameter of the convex closed curve K is less than $\frac{\pi}{2}$.

First we shall prove that the center of the minimal circular ring of K is not on K and the center is unique.

* 数 学 教 室
Department of Mathematics

Then, we shall use the following notations:

R_u denotes the radius of the circumscribed circle of K , O_u denotes the center of the above circle, R denotes the radius of the outer circle of the minimal circular ring, O denotes the center of the above ring, r_i denotes the radius of the inscribed circle of K , r denotes the radius of the inner circle of the minimal circular ring, and finally Δ denotes the length of $\widehat{O_u O}$.

The relations

$$\cos R \geq \cos R_u \frac{\cos (R_u - \Delta)}{\cos (R_u - 2\Delta)},$$

$$\cos r \leq \cos r_i \frac{\cos R}{\cos 2R}$$

hold for K . If R_u is constant, that is, the circumscribed circle of the convex closed curve is given, R takes the maximum for Δ which satisfies

$$3 \sin \Delta = \sin (2 R_u - 3 \Delta).$$

Moreover the solution of the above equation for Δ is unique.

正の定曲率曲面は球面である。従って半径が1である球面について考える。この球面上に凸閉曲線 K をとる。ここで球面上の凸閉曲線とは、球面上の閉曲線でこの曲線上の各点でこれに接する大円をつくるときにこの閉曲線が常に大円でかこまれた一方の半球面上に完全にふくまれているものである。以下にのべる凸閉曲線とはすべて上のような性質をもった閉曲線を意味するものである。

K でかこまれた球面上の閉領域 (この領域は2通り考えられるが、 K ののついている半球面上にある領域) を G とする。 P を G の1点, Q を K の動点とすれば

函数
$$R(P) = \max_Q \widehat{PQ}$$

が考えられ、ある点 P で $R(P)$ が最小値 R_u をとる。ここで \widehat{PQ} は、2点 P, Q を通る大円の劣弧 PQ の長さを表わすものとする。また2点 P, Q を通る大円を \widehat{PQ} で示すこともある。以下 \widehat{PQ} はこの両方の意味に用いる。最小値 R_u は K の外接円の半径に等しいのである。

$R(P)$ と同様に

函数
$$r(P) = \min_Q \widehat{PQ}$$

が考えられ、その最大値を r_i とする。 r_i は K の内接円の半径に等しいのである。

函数
$$O(P) = R(P) - r(P)$$

を点 P に関する曲線の **Oscillation** という。 G のある点 P に対して $O(P)$ が最小値をとるとき、 P を中心とし半径 $R(P)$ および $r(P)$ の2つの同心円をつくる。この2つの同心円の図形を凸閉曲線 K の **minimal circular ring**, 同心円の中心を **minimal circular ring の中心**, このときの $O(P)$ を K の **minimal circular ring の厚さ**, 同心円の外側の円を外円, 内側の円を内円という。

凸閉曲線上の2点を結ぶ大円の劣弧の長さの最大値を、この凸閉曲線の**直径**という。

本論文でのべる凸閉曲線とはすべてその直径が $\leq \frac{\pi}{2}$ であるものと仮定する。

凸閉曲線の **minimal circular ring** についてつぎの定理が成立する。

定理 凸閉曲線 K の **minimal circular ring** の中心は領域 G の周上ではなく、かつ1個存在してただ1個に限る。

定理 凸閉曲線 K の外接円の半径を R_u , 中心を O_u , **minimal circular ring** の外円の半径を R ,

内円の半径を r , その中心を O , $\widehat{OuO} = \Delta$, K の内接円の半径を r_i とするとき, つぎの不等式が成立する。

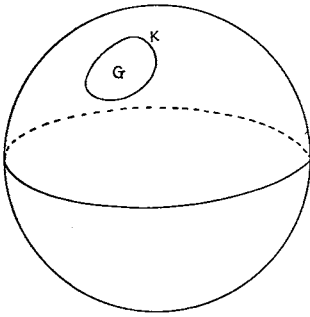
$$\cos R \geq \cos R_u \frac{\cos (R_u - \Delta)}{\cos (R_u - 2\Delta)},$$

$$\cos r \leq \cos r_i \frac{\cos R}{\cos 2R}$$

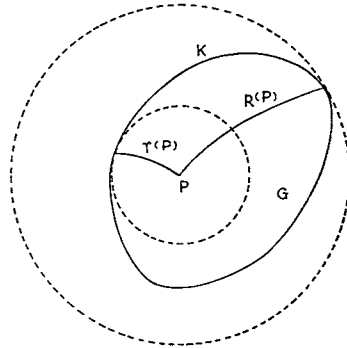
R_u が一定であるとき, 即ち凸閉曲線の外接円が与えられているとき,

$$3 \sin \Delta = \sin (2 R_u - 3 \Delta)$$

であるような Δ の値に対して R が最大値をとる。またこのような Δ の値はただ 1 つある。



第 1 図



第 2 図

§ 1. $R(P)$ の Convexity の定義

閉領域 G の点 P に対して定義せられている函数 $f(P)$ について, G の任意の 2 点を $P_1, P_2, \widehat{P_1P_2}$ の中点を P_0 とするとき

$$f(P_1) + f(P_2) \geq 2f(P_0) \quad (1.1)$$

が成立するならば, $f(P)$ は **convex** であるという。

予備定理 球面上で $\widehat{P_1P_2} \leq \frac{\pi}{2}$ である 2 点 P_1, P_2 をとり, $\widehat{P_1P_2}$ の中点を P_0 ,

$$\widehat{SP_1} < \frac{\pi}{2}, \quad \widehat{SP_2} < \frac{\pi}{2}, \quad \widehat{SP_0} < \frac{\pi}{2}$$

であるような任意の点を S とするとき

$$2 \widehat{P_0S} \leq \widehat{P_1S} + \widehat{P_2S}$$

が成立する。

(証明)

$\widehat{SP_0}$ の延長上に $\widehat{SP_0} = \widehat{P_0S'}$ であるように点 S' をとり, 球の中心を O とすれば

$$\angle SOP_2 + \angle P_2OS' > \angle SOS'$$

$$\therefore \widehat{P_2S'} + \widehat{P_2S} > \widehat{SS'} = 2 \widehat{P_0S}$$

$\widehat{P_2S'} = \widehat{P_1S}$ が成立するから

$$\widehat{P_1S} + \widehat{P_2S} > 2 \widehat{P_0S}$$

S が $\widehat{P_1 P_2}$ の延長上にあれば

$$2 \widehat{P_0 S} = \widehat{P_1 S} + \widehat{P_2 S}$$

よって

$$2 \widehat{P_0 S} \leq \widehat{P_1 S} + \widehat{P_2 S} \quad (1.2)$$

故に定理が証明せられた。

G の任意の 2 点 P_1, P_2 をとり, $\widehat{P_1 P_2}$ の中点を P_0 , P_0 から最大距離にある K 上の点を S とすれば

$$\widehat{P_0 S} = R(P_0)$$

$$\widehat{P_1 S} \leq R(P_1)$$

$$\widehat{P_2 S} \leq R(P_2)$$

(1. 2) から

$$\begin{aligned} 2 \widehat{P_0 S} &= 2 R(P_0) \leq \widehat{P_1 S} + \widehat{P_2 S} \\ &\leq R(P_1) + R(P_2) \end{aligned}$$

(1. 1), (1. 2) から, つぎの定理が得られる。

定理 1. 凸閉曲線 K において, $R(P)$ は領域 G の点に対して convex である。

§ 2. $r(P)$ の concavity の定義

領域 G の点 P に対して定義されている 函数 $f(P)$ について, G の任意の 2 点を P_1, P_2 , $\widehat{P_1 P_2}$ の中点を P_0 とするとき

$$f(P_1) + f(P_2) \leq 2 f(P_0) \quad (2.1)$$

が成立するならば, $f(P)$ は concave であるという。

G の 2 点を P_1, P_2 , $\widehat{P_1 P_2}$ の中点を P_0 , P_0 から最短距離にある K 上の点を S_0 とする。 S_0 を通り $\widehat{P_0 S_0}$ に垂直な大円 l をつくれば, l が K 上での P_0 からの最短距離の大円弧であるから, l は K に接している。よって大円 l は, 球面上の凸閉曲線の定義により, K の外側にある。大円 l の極を Q, $\widehat{Q P_1}$ および $\widehat{Q P_2}$ が l と交わる点を Q_1, Q_2 とすれば

$$\widehat{Q Q_1} \perp \widehat{Q_1 Q_2}, \quad \widehat{Q Q_2} \perp \widehat{Q_1 Q_2}$$

$\widehat{Q Q_1}, \widehat{Q Q_2}$ と K との交点を P'_1, P'_2 とする。

$$\widehat{Q P_1} < \frac{\pi}{2}, \quad \widehat{Q P_2} < \frac{\pi}{2}$$

であるから

$$\widehat{Q P_0} < \frac{\pi}{2}$$

(1. 2) により

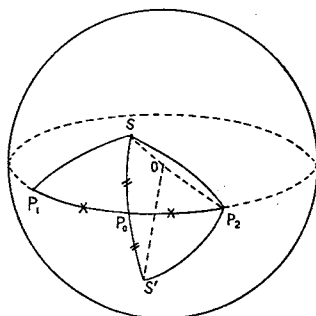
$$2 \widehat{Q P_0} \leq \widehat{Q P_1} + \widehat{Q P_2}$$

Q は大円 $Q_1 S_0 Q_2$ の極であるから

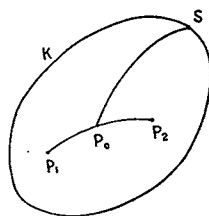
$$\widehat{Q Q_1} = \widehat{Q S_0} = \widehat{Q Q_2}$$

$$\therefore \widehat{Q P_1} = \frac{\pi}{2} - \widehat{P_1 Q_1}, \quad \widehat{Q P_2} = \frac{\pi}{2} - \widehat{P_2 Q_2},$$

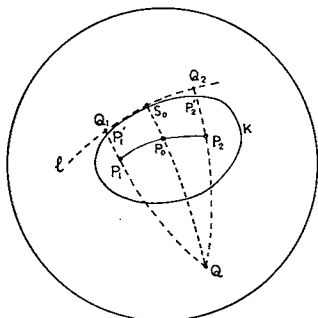
$$\widehat{Q P_0} = \frac{\pi}{2} - \widehat{P_0 S_0}$$



第 3 図



第 4 図



第 5 図

よって

$$2 \left(\frac{\pi}{2} - \widehat{P_0 S_0} \right) \leq \left(\frac{\pi}{2} - \widehat{P_1 Q_1} \right) + \left(\frac{\pi}{2} - \widehat{P_2 Q_2} \right)$$

∴

$$2 \widehat{P_0 S_0} \geq \widehat{P_1 Q_1} + \widehat{P_2 Q_2} \geq \widehat{P_1 P'_1} + \widehat{P_2 P'_2}$$

$$2 r(P_0) \geq \widehat{P_1 P'_1} + \widehat{P_2 P'_2} \geq r(P_1) + r(P_2)$$

よってつぎの定理が得られる。

定理 2. 凸閉曲線 K において、函数 $r(P)$ は領域 G の点に対して concave である。

§ 3. Oscillation $O(P)$

$O(P) = R(P) - r(P)$ である。

G の 2 点を P_1, P_2 , $\widehat{P_1 P_2}$ の中点を P_0 とするとき

$$O(P_0) = R(P_0) - r(P_0)$$

$$\leq \frac{1}{2} \{ R(P_1) + R(P_2) \} - \frac{1}{2} \{ r(P_1) + r(P_2) \}$$

$$= \frac{1}{2} \{ O(P_1) + O(P_2) \}$$

である。よって

定理 3. 凸閉曲線 K でかこまれた 領域 G の点 P に対して Oscillation $O(P)$ は convex である。

$O(P)$ は領域 G のすべての点について、負でない連続函数であるから、Weierstrass の定理により最小値をもっている。もし K が円であればこのときのみ $O(P) = 0$ である。

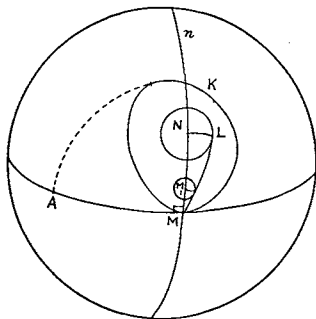
定理 4. 領域 G で $O(P)$ が最小値をとる点は、凸閉曲線 K の周上にはない。

(証明) $O(P)$ が最小値をとる点、即ち minimal circular ring の中心 M がもし K 上にあったとする。 M が尖点でなければ、 M で K に垂直な大円 n をつくれば、 n の一部は K の内部にある、もし M が尖点であれば、 M を通り K の内部を通るような任意の大円 n をつくり、 M を通り n に垂直な大円を supporting great circle と考える。よっていずれの場合でも、 M において K に垂直な大円の一部は K の内部にある。 n 上の点で K の内部にある点を N とする。 N を中心として K の内部に完全にふくまれる円をつくり、その半径 (球面距離) を a とする。

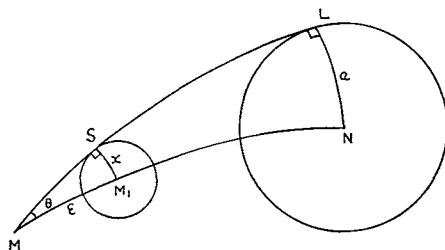
\widehat{MN} 上の任意の点を M_1 , M を通り円 N に接する大円弧 \widehat{ML} をつくり、その接点を L とする。 M_1 を通り \widehat{ML} に垂直な大円をつくり、 \widehat{ML} との交点を S とする。 \widehat{ML} は円 N に接するから

$$r(M_1) \geq \widehat{M_1 S}$$

$$\angle NML = \theta, \quad \widehat{M_1 S} = x \quad \text{とおけば}$$



第 6 図



第 7 図

$$\sin a = \sin \theta \sin \widehat{MN}$$

$$\sin x = \sin \theta \sin \widehat{MM_1}$$

$$\therefore \frac{\sin a}{\sin x} = \frac{\sin \widehat{MN}}{\sin \widehat{MM_1}}$$

$$\therefore \sin x = \sin \widehat{SM_1} = \frac{\sin a}{\sin \widehat{MN}} \sin \widehat{MM_1} \quad (3.1)$$

$\widehat{MM_1} = \varepsilon$ とおけば x は ε の函数である。点 M に対する K の oscillation $O(M)$ を考える。

$$O(M) = R(M) - r(M)$$

M は K 上の点であるから

$$r(M) = 0$$

$$\therefore O(M) = R(M)$$

K の直径は $\leq \frac{\pi}{2}$ であるから

$$O(M) = R(M) \leq \frac{\pi}{2}$$

$O(M) = R$ とおく。

M を中心として半径 R の円をつくれば、 K はこの円の内部に完全にふくまれてしまう。何となれば $O(M)$ 即ち $R(M)$ は、点 M と K 上の点との距離の最大値であるから。円 M と、 M で K に接する大円との交点を A とすれば、 $\widehat{AM} = R$ であるから点 A は K 上にあるかまたは K の外部にある。

$$(3.1) \quad \sin x = \frac{\sin a}{\sin \widehat{MN}} \sin \varepsilon$$

とかかれる。これを ε で微分して

$$\cos x \frac{dx}{d\varepsilon} = \frac{\sin a}{\sin \widehat{MN}} \cos \varepsilon$$

$$\therefore \left[\frac{dx}{d\varepsilon} \right]_{\varepsilon=0} = \frac{\sin a}{\sin \widehat{MN}} \quad (3.2)$$

球面直角三角形 AMM_1 ($\angle M = \frac{\pi}{2}$) で

$$\cos \widehat{AM_1} = \cos \widehat{AM} \cos \widehat{MM_1} = \cos R \cos \varepsilon$$

$$\therefore -\sin \widehat{AM_1} \frac{d(\widehat{AM_1})}{d\varepsilon} = -\cos R \sin \varepsilon$$

$$\therefore \left[\frac{d}{d\varepsilon} (\widehat{AM_1}) \right]_{\varepsilon=0} = 0 \quad (3.3)$$

(3.2), (3.3) から

$$\left[\frac{d}{d\varepsilon} (\widehat{AM_1} - x) \right]_{\varepsilon=0} = -\frac{\sin a}{\sin \widehat{MN}} < 0$$

よって $\widehat{AM_1} - x$ は $\varepsilon = 0$ の近傍で減少函数である。 A は K の内部にはないから

$$\widehat{AM_1} \geq R(M_1)$$

また

$$r(M_1) \geq x \quad \text{である。}$$

よって

$$\widehat{AM_1} - x \geq R(M_1) - x \geq R(M_1) - r(M_1) = O(M_1)$$

ところで

$$x \rightarrow 0 \quad \text{に対して} \quad \widehat{AM_1} - x \rightarrow O(M)$$

$\widehat{AM_1} - x$ は減少函数であるから

$$\widehat{AM_1} - x < O(M)$$

$$\therefore O(M_1) < O(M)$$

これは $O(M)$ が K について最小値であることに矛盾する。よって定理は証明せられた。

§ 4. Minimal circular ring の中心の Uniqueness

領域 G で $O(P)$ が異なった 2 点 O_1, O_2 で最小値をとったと仮定する。 $O(P)$ は convex であるから、 $\widehat{O_1O_2}$ の中点 O に対して

$$\frac{O(O_1) + O(O_2)}{2} \geq O\left(\frac{O_1 + O_2}{2}\right) = O(O)$$

O_1, O_2 は minimal circular ring の中心であるから

$$O(O_1) = O(O_2)$$

$$\therefore O(O_1) = O(O_2) = O(O) \quad (4.1)$$

$$2 O(O) = O(O_1) + O(O_2) \quad (4.2)$$

$$\text{定理 1. から} \quad 2 R(O) \leq R(O_1) + R(O_2) \quad (4.3)$$

$$\text{定理 2. から} \quad 2 r(O) \geq r(O_1) + r(O_2) \quad (4.4)$$

$$\therefore 2 \{R(O) - r(O)\} \leq \{R(O_1) - r(O_1)\} + \{R(O_2) - r(O_2)\}$$

$$\therefore 2 O(O) \leq O(O_1) + O(O_2) \quad (4.5)$$

(4.2), (4.5) が両立するためには

(4.3), (4.4) はいずれも等号で成立しなければならない。

$$\therefore 2 R(O) = R(O_1) + R(O_2)$$

O から最大距離にある K 上の点を S とすれば

$$2 R(O) = 2 \widehat{OS} \leq \widehat{O_1S} + \widehat{O_2S} \quad (4.6)$$

$$\text{然るに} \quad R(O_1) \geq \widehat{O_1S}, \quad R(O_2) \geq \widehat{O_2S} \quad (4.7)$$

$$\begin{aligned} \therefore R(O_1) + R(O_2) &= 2 R(O) \\ &= 2 \widehat{OS} \geq \widehat{O_1S} + \widehat{O_2S} \end{aligned} \quad (4.8)$$

(4.6), (4.8) から

$$2 \widehat{OS} = \widehat{O_1S} + \widehat{O_2S} \quad (4.9)$$

O_1, O_2, O は 1 つの大円上の 3 点であるから、上の式が成立するためには、 O_1, O_2, O, S は 1 つの大円上にある。よって S は $\widehat{O_1O_2}$ の延長上にある K 上の 1 点で、 O_1, O_2 から最大距離にある。何となれば (4.9) から

$$\widehat{O_1S} = \widehat{OS} - \widehat{OO_1}, \quad \widehat{O_2S} = \widehat{OS} - \widehat{OO_2}$$

が導かれるから、容易に分かる。

ここで $R(O_2) < R(O_1)$ と仮定すれば

$$R(O_1) - R(O_2) = \widehat{O_1O_2}$$

$$O(O_1) = O(O_2) \quad \text{から}$$

$$R(O_1) - r(O_1) = R(O_2) - r(O_2)$$

よって

$$R(O_1) - r(O_1) = R(O_2) - r(O_2)$$

\therefore

$$r(O_1) - r(O_2) = \widehat{O_1 O_2}$$

よって O_1, O_2 を中心として $r(O_1), r(O_2)$ を半径とする円は内接している。その接点を S' とすれば大円弧 $\widehat{O_1 O_2}$ 上に、 O_1, O_2, S', S の順にならんでいる。

然るに上の2つの内接する円はそれぞれ K と少なくとも1つの点を共有しているから、 S がその共有点でなければならない。何となれば

$$R(O_2) < R(O_1) \quad \text{から} \quad r(O_2) < r(O_1)$$

故に円 $r(O_2)$ は円 $r(O_1)$ の中に入ってしまった、接点 S' を除いて円 $r(O_2)$ は K の中にふくまれてしまう。即ちその接点のみが K 上の点である。故に S, S' は一致しなければならない。

よって

$$\widehat{O_1 S} = \widehat{O_1 S'}$$

\therefore

$$R(O_1) = r(O_1)$$

\therefore

$$O(O_1) = 0$$

即ち minimal circular ring の厚さは0となり、凸閉曲線 K は円となる。故に円以外の凸閉曲線に対しては不合理である。よって O_1, O_2 のように minimal circular ring の中心は2個はあり得ない。

以上のことからつぎの定理が得られる。

定理 5. 凸閉曲線 K に対して minimal circular ring の中心は、1個存在してただ1個に限る。

§ 5. R, R_u についての不等式

minimal circular ring の中心を O 、外円を C 、内円を C_k, C_g の半径を R, C_k の半径を r とする。 O が K の外接円の中心 O_u と一致すれば $R_u = R$ 、一致しなければ $R_u < R$ である。ここに R_u は K の外接円の半径である。

C_u と C_g の中心距離 $\widehat{O_u O}$ を d で表わし、 C_u と C_g の交点を A, B とする。 C_u と K との共有点はすべて C_g の内部にある C_u の弧上にあって、それらは半円より大きい円弧上にあるから、 C_g の外にある C_u の弧 AB は半円より小さい。 C_k と K との共有点の中から2つの点をえらび、 C_g と K との共有点の中からも2つの点をえらび、これらの4つの点が K 上で互いに分離せられているようにすることができる。このことは T. Bonnesen^{1), 2)} が平面上の凸閉曲線の minimal circular ring について証明したと同様の方法でできる。よって、 C_u の中にある C_g の弧 AB 上に K の点が少なくとも2個存在する。その2点を A', B' とする。 K 上で A' と B' との間に C_k との共有点が少なくとも1個存在する。その点を D' とする。 C_g 内にある C_u の円弧 AB は半円より大きいのであるから、 $\widehat{O O_u}$ と $\widehat{A B}$ との交点を D とすれば、 D は $\widehat{O O_u}$ の延長上にある。即ち O_u は O と D との間にある。 A', B' は C_g の C_u 内にある劣弧上にあり、 C_k と K との共有点 D' は C_g の劣弧の弓形 AB 内にある。

故に

$$r = \widehat{O D'} \geq \widehat{O D} = \widehat{O O_u} + \widehat{O_u D} = d + \widehat{O_u D}$$

また C_k は C_u の内部にあるから

$$r \leq R_u - d$$

\therefore

$$d + \widehat{O_u D} \leq r \leq R_u - d \quad (5.1)$$

$$\cos \widehat{O A} = \cos \widehat{O D} \cos \widehat{A D}$$

$$\cos \widehat{O_u A} = \cos \widehat{O_u D} \cos \widehat{A D}$$

$3 \sin \Delta = \sin (2 R_u - 3 \Delta)$ であるような Δ の値のときである、よってつぎの定理が得られる。

定理 6. 凸閉曲線の外接円の半径を R_u , 中心を O_u , minimal circular ring の外円の半径を R , その中心を O , $O_u O = \Delta$ とおくと

$$\cos R \geq \cos R_u \frac{\cos (R_u - \Delta)}{\cos (R_u - 2\Delta)}$$

である。

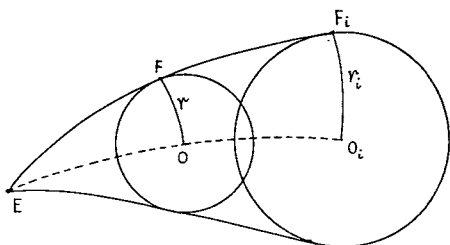
R_u が一定であるとき

$$3 \sin \Delta = \sin (2 R_u - 3 \Delta)$$

である Δ の値はただ 1 個存在して、この Δ の値に対して R が最大値をとる。

§ 6. R, r, r_i についての不等式

minimal circular ring の内円 C_k と K の内接円 C_i との共通の tangent great circle は 2 個ある。その交点の 1 つを E とする。ただし $\widehat{EO_i}$ の間に O があるような交点を E とする。 E を通る 1 つの共通の tangent great circle と C_k, C_i との接点をそれぞれ F, F_i とする。



第 9 図

$\widehat{EO_i} = \widehat{EO} + \delta$, ここに $\delta = \widehat{OO_i}$ とおく。

$$\widehat{EF} \leq \widehat{EF_i} \leq \frac{\pi}{2} \text{ である。}$$

$$\therefore \cos \widehat{EF_i} \leq \cos \widehat{EF}$$

$$\cos \widehat{EO} - \cos \widehat{EF} \cos r,$$

$$\cos \widehat{EO_i} = \cos \widehat{EF_i} \cos r_i$$

$$\therefore \frac{\cos \widehat{EO_i}}{\cos r_i} \leq \frac{\cos \widehat{EO}}{\cos r}$$

$$\therefore \cos r \leq \frac{\cos \widehat{EO}}{\cos \widehat{EO_i}} \cos r_i = \frac{\cos \widehat{EO}}{\cos (\widehat{EO} + \delta)} \cos r_i$$

E は外円 C_k の外にある。もし E が C_k の周上か内部にあれば C_k が外円であることに矛盾してくる。

$$\therefore \widehat{EO} \geq R$$

$$\therefore \cos \widehat{EO} \leq \cos R$$

$$\begin{aligned} \frac{\cos r_i}{\cos r} &\geq \frac{\cos (\widehat{EO} + \delta)}{\cos \widehat{EO}} \\ &= \cos \delta - \sin \delta \tan \widehat{EO} \end{aligned}$$

$\delta < R, \widehat{EO} > R$ から

$$\cos \delta > \cos R, \sin \delta < \sin R, \tan \widehat{EO} > \tan R$$

$$\therefore \frac{\cos (\widehat{EO} + \delta)}{\cos \widehat{EO}} > \cos R - \sin R \tan R = \frac{\cos 2R}{\cos R}$$

$$\therefore \frac{\cos r_i}{\cos r} \geq \frac{\cos 2R}{\cos R}$$

$$\therefore \cos r \leq \frac{\cos R}{\cos 2R} \cos r_i$$

定理 7. 凸閉曲線の minimal circular ring の内円の半径を r , 外円の半径を R , 内接円の半径を r_i とすると

$$\cos r \leq \frac{\cos R}{\cos 2R} \cos r_i$$

文 献

- (1) T. Bonnesen, Über das isoperimetrische Defizit ebener Figure, Math. Annalen, 91 (1924), S. 252 – 268.
- (2) T. Bonnesen, Les Problèmes des Isopérimètres et des Isépiphanes.